

5歳児 移行期

心も体も充実 自立・自信につながる時

1 発達の特徴

- ・ 全身運動が滑らかで巧みになり、快活に跳び回るようになる。
- ・ これまでの体験から、自信や、予想や見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ、意欲が旺盛になる。
- ・ 仲間の意思を大切にしようとし、役割分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。
- ・ 様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。
- ・ 思考力や認識力も高まり、自然現象や社会事象、文字などへの興味や関心も高まっていく。
- ・ 身近な大人に甘え、気持ちを休めることもあるが、様々な経験を通して自立心が一層高まっていく。

【巧みな全身運動】

6歳を過ぎると、身体的な成熟と機能の発達に加え、年長組として自覚や誇りをもった姿が見られるようになります。全力で走り、跳躍するなど快活に跳び回り、自信をもって活動するようになります。

全身運動が滑らかになり、ボールをつきながら走ったり、跳び箱を跳んだり、竹馬に乗るなど様々な運動に意欲的に挑戦するようになります。同時に細かな手の動きが一段と進み、自分のイメージしたように描いたり、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をするなど、様々な方法で様々な材料や用具を用いて工夫しながら表現することを楽しみます。

【自主と協調の態度】

この頃になると仲間の意思や仲間の中で通用する約束事が大事なものとなり、それを守ろうとします。

ごっこ遊びを発展させた集団遊びが活発に展開され、遊びの中で役割が生まれます。子どもはその役割を担うことで、協同しながら遊びを持続し、発展させていきます。また、子どもはごっこ遊びの中で、手の込んだ流れと様々な役割を考え出し、遊びはより複雑なものとなっていきます。こうした遊びを試行錯誤しながらも満足いくまで楽しもうとするようになります。

仲間の一員として認められ、遊びの楽しさを共有するためには、持てる知識を総動員して創意工夫する主体的、自主的な姿勢や自由な発想が必要となります。また、友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合ったりするとともに、自分の主張を一步譲って仲間と協調したり、意見を調整しながら仲間の中で合意を得ていくといった経験も重要となります。

【思考力と自立心の高まり】

自ら言葉を使い文字を書いたり読んだりする姿も見られ、自然現象や社会事象などに対する認識も高まります。周囲の大人の言動に対してもよく観察し、批判したり、意見を述べたりすることもあります。

また、自分自身の内面への思考が進み、自意識が高まるとともに、自分とは異なる身近な人の存在や、それぞれの人の特性や持ち味などに気付いていきます。こういった成長により、「大人っぽくなった」という印象を周囲に与えます。

時には身近な大人に甘え、気持ちを休めたりすることもあります。様々な経験や対人関係の広がりから自立心が高まり、就学への意欲や期待に胸を弾ませます。

2 教育・保育の重点

- 課題に向かって取り組む中で、自分の力を発揮しやり遂げた満足感を味わい、自信をもって行動できるようにする。
- 自分の考えを様々な方法で表現し、伝わったり受け止められたりする嬉しさや、互いに生かし合い、共感し合う喜びを味わえるようにする。
- 生活や活動を進める中で、自分のなすべきことが分かり、見通しをもったり周囲の状況を判断して行動したりするなど、責任をもって取り組もうとする態度を育てる。
- 園内外の身近な人と触れ合う体験を重ねる中で、人との様々な関わり方に気づき、自分が役に立つ喜びや地域への親しみを育てる。また、好奇心や探求心が高まり、自然への愛情や畏敬の念を一層深めるとともに、生活や遊びを工夫する中で、身近にあるものから必要な情報を取り入れる力や伝え合う喜びを育てる。
- 遊びや生活の中で、必要感をもって数量や図形、標識や文字に親しむ環境を整え、興味や関心、感覚を育んでいく。

3 親育ち・子育て支援 保護者へ発信しましょう…子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

- ☆ 就学時健康診断が始まりいよいよ小学校入学が近付いてきました。入学への不安と期待が交錯する頃です。不安を期待に変えられるよう毎日の暮らしを落ち着いたものにしていきましょう。
- ☆ 園と保護者が連携して子どもの頑張りを認めてあげましょう。
 - ・ この頃は園生活も充実し、年長組として行事をリードすることも多くなります。自分の力を発揮し、周囲の人にその力を認めてもらう機会にもなります。
 - ・ 頑張った時、やり遂げた時はそのことを大いに認め、子ども自身が自分の力を発揮した喜びを感じられるよう家庭と園との連携をますます深めていきましょう。
 - ・ 家庭での生活の中でも、仕事を分担したり手伝いをしたりするなど、責任をもってことを成し遂げたり人の役に立ったり、感謝されたりする経験ができるよう具体的な事例をあげて保護者に伝えましょう。
- ☆ 自分で状況を判断して行動できるよう伝えましょう。
 - ・ 自分のものの管理をする、準備や身の回りの始末を一定の時間でできる、自分の考えを相手に伝えるなど、自分で状況を判断して行動できるようにするために、園が保育を進める際の具体的な目標や視点を知らせ、家庭でも意識をもって生活できるよう連携を深めましょう。
- ☆ 生活リズムを整えるようにしましょう。
 - ・ 脳が目覚めるのには時間がかかります。しっかりと朝食を食べて、脳を覚醒させることの大切さを家庭でも話題にして、子どもたちが自覚できるようにしましょう。
 - ・ 家を出る時間から考えて、身支度、朝食、起床、就寝と子どもに合った生活の時間をつくるなど、具体的に心がけることを伝えましょう。

☆ 小学校入学に向けた準備について伝えましょう。

- ・ 今まで親と一緒にだった通園も、子ども同士や一人での登校になります。登校の道を覚えるだけでなく、学校への親しみや期待がもてるよう、入学前に繰り返し学校への道を通ってみましょう。
- ・ 10月下旬頃から各小学校で始まる「就学時健康診断」は、入学準備の第一歩です。親子共に小学校生活への期待がもてるよう、健診の意義を伝えましょう。

移行期の教育

小学校に送り出す前に

楽しかった園生活も、残すところ6か月。就学時健康診断もそろそろ始まり、年長組担任は残された期間をどのように過ごそうかと心をくだきます。園での生活や遊びを通して多くのことを学び、自分の力を十分に発揮し満足感を味わう体験が、その後の意欲や創造力などの「学びの基礎」を育むものです。入学までに何かやり残したことはないかと、指導計画を点検し一人一人の子ども様子を思い浮かべてみます。

小学校を前にしたこの時期だからこそ、「幼児教育において育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について再確認しておきましょう。

● 幼児教育において育みたい資質・能力

1 知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりすること

2 思考力、判断力、表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること

3 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること



● 学校教育において育みたい資質・能力

1 知能及び技能

2 思考力、判断力、表現力

3 学びに向かう力、人間性等

● 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

1 健康な心と体

2 自立心

3 協同性

4 道徳性・規範意識の芽生え

5 社会生活との関わり

6 思考力の芽生え

7 自然との関わり・生命尊重

8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

9 言葉による伝え合い

10 豊かな感性と表現

※詳細はP.8を参照

<移行期の活動の姿>

☆1年生との交流活動を前に先生の話聞く



◎先生や友達の言葉や話に興味をもち、親しみをもって聞いたり話したりする。

☆自分たちが作った基地を「こわさないで」と文字を使って伝える



◎文字や数字を使って伝える楽しさを味わう。

☆収穫したタマネギの重さを量る。



◎遊びの中で文字や数字、ものの性質、自然の変化などへの興味や関心をもつ。

☆部屋の片付けをみんなで力を合わせてする。



◎当番活動や生活に必要な準備、後片付けなどを友達と協力して行う。

☆クラスのみんで力を合わせて遊園地を作る。



◎共通の目的に向かって、友達と考えを出し合ってやり遂げた喜びや充実感を感じる。

〈学びの基礎〉

- ・ 1年生と一緒に遊びたい。
- ・ よーく話を聞こう。
- ・ 小学校ではどんなことをするのか。楽しみ!!
- ・ 分からないことは聞けばいいんだ。

〈子どもの姿〉

- ・ 交流活動に期待や意欲をもつ。
- ・ 静かに話を聞こうとする。
- ・ 話の内容を理解して行動しようとする。
- ・ 分からないことを聞こうとする。

〈保育者の関わり〉

周囲の様々な事象への興味や関心を強くもち、今日は先生がどんな話をしてくれるのかとワクワクしながら待つ気持ちと、保育者に対する親しみと尊敬を育てることが大切です。保育者を慕い信頼してきた子どもは、入学後、同じ立場にいる教員を信頼し、親しみをもつに違いありません。

- ・ 基地をこのまま残したい
- ・ どうしたらいいかな。
- ・ みんなにお願いしよう。
- ・ 書いておけばいいんだ。
- ・ 書けるかな、教えて。

- ・ 文字を使って伝えたいことを表そうとする。
- ・ 文字を書くことを楽しむ。
- ・ 知らない文字を教えてもらおうとする。
- ・ 文字で表して伝わった喜びを感じる。

文字を使って、自分の思いが伝わったという喜びの体験が、また書いてみようという意欲につながっています。ごっこ遊びの看板や絵本づくりなど、様々な場面で書いたり読んだりする体験が大切です。

- ・ タマネギを量ってみよう。
- ・ 体重と比べてみよう。
- ・ 目盛りを読んでみよう。
- ・ お礼の手紙を書こう。

- ・ 量や重さに関心をもつ。
- ・ 秤の目盛りを読もうとする。
- ・ 数字や文字に興味をもつ。
- ・ 秤の役割や仕組みに関心をもつ。

収穫したタマネギを体重測定で使っている台秤で量り、目盛りの数字に関心をもつ。保育者と一緒に目盛りを読み、自分の体重と比べる。こんな体験が身近な用具への関心や数字の大小への理解につながります。

- ・ 部屋をきれいにしよう。
- ・ 雑巾を使おう。
- ・ きれいになって気持ちいい。
- ・ カバンをきちんとしまおう。

- ・ 汚れていることに気付く。
- ・ 雑巾の用途が分かり、濯いだり絞ったりして使う。
- ・ きれいになった気持ちよさを感じる。
- ・ 自分の持ち物を片付ける。

気持ちよく生活するための生活習慣は、日々の生活の中で培われます。子どもが行うことに期待をもって見守り、具体的な言葉や動作で援助しながら身に付けられるようにします。生活者としてモデルとなる保育者の役割は重要です。

- ・ 楽しい遊園地を作ろう。
- ・ どんな乗り物を作ろうか。
- ・ どうやって作るか相談しよう。
- ・ Aちゃん、あんなこと知ってる。
- ・ Bちゃん、こんなこともできる。
- ・ ちょっと難しくても頑張ろう。

- ・ 目的意識や課題意識をもって活動に取り組もうとする。
- ・ 友達の話を聞いたり、自分の考えを言葉や動きで表したりする。
- ・ 考えたり工夫したりして楽しむ。
- ・ みんなで力を合わせてやり遂げた満足感を味わう。
- ・ 友達のよさを知る。

「協同的遊び」とは、共通の目的に向けて子ども同士が協力し合うことです。子ども自身が自己発揮するところから自ら行動できるようになり、そこにお互いのやってみようという気持ちが交わり、共通の目的が生まれます。それに向けて、分担、話し合い、工夫し合うなかで力が育っていく過程が大切です。

4 発達に必要な経験の内容

健康

- 周りの環境や状況を活かし、思い切り体を動かしたり、決まりや遊び方を工夫したりしながら楽しく遊ぶ。
- 遊びや生活の中で動と静、緊張と開放を感じ、調整しながら遊ぼうとする。
- 見通しをもって自分たちの生活をつくっていかうとする。
- 当番活動や生活に必要な準備、仕事、片付けなどを友達と協力して行う。
- 自分の体の状態に関心をもつ。
- 災害時の行動の仕方が分かり、指示をよく聞き、落ち着いて行動する。

保育者の関わりのポイント

- ★ チームで取り組む活動を子どもたちで進めていけるよう、場の使い方や時間など他のクラスとの調整を図り、伸び伸びと活動できるようにする。
- ★ 修了に向かってしなければならないこと、したいことなど、子どもたちでクラスやグループの課題を見つけられるようにし、修了までの日々の活動に見通しをもてるよう援助する。
- ★ 生活に必要な習慣や態度を見直し、みんなと気持ちよく生活するために自分ができることをしたり、年長児として園全体の中でやってきた役割を4歳児に伝えたりするなどして、年長児としての自信と誇りをもてるようにする。

人間関係

- 自分がしなくてはいけないことが分かり気持ちや行動を自分で調整しようとする。
- グループの友達と考えを出し合ったりやり通したことを喜び合ったり充実感を感じたりする。また、遊びの中で生じるトラブルを公平な立場で解決しようとする。
- してよいことやしてはいけないことが分かり、自分で判断して行動する。
- 進んで決まりを守ったり園の約束ごとを4歳児に引き継いだりする。
- 友達のよさや得意な面を受け止め合う。
- クラス全体で活動する中で、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。
- 高齢者をはじめ地域の人々など、自分の生活に関係の深い様々な人に親しみをもつ。

保育者の関わりのポイント

- 集団生活に必要な決まりや約束は、子どもが状況を判断し、必要感をもって守れるよう言葉がけや援助を工夫し、自分で考えて行動できるようにする。
- クラス全体やグループで共通の目的や課題に向かって活動に取り組む中で一人一人が十分に力を発揮し、互いによさを認め合い、みんなで力を合わせてやり遂げた充実感を味わう経験を積み重ねていけるようにする。
- 年少児や小・中学生、高齢者など様々な人々と関わる場や機会を大切に、優しくしてもらったり、相手を思いやったりする体験を通し、自分とは異なる年齢の人への関心を高め、自分の成長を自覚したり、自分を大切に、相手も大切にしたりする気持ちが育つようにしていく。



小学校で1年生と体験授業
真剣な5歳児

環 境

- 自然の美しさ、不思議さに気付き、伝え合ったり図鑑で調べたり遊びに取り入れたりする。
- 身近な動物の世話をしたり接したりする中で、動物の気持ちや特性が分かり優しくする。
- 伝統的な行事に関心をもち、季節や生活の変化に気付く。
- 遊びの中で人数を調整したり得点を付けたりして、数量に関心をもち、遊びに取り入れる。
- 体験授業に参加し、学校生活に期待をもつ。
- 国旗に興味をもち自分の国の旗が分かる。
- 環境保護の意味を知り、ごみを分類したりものを意識して大切に使用したりして環境への意識をもつ。

保育者の関わりのポイント

- ▲ 動植物の様子や自然現象の変化に気付くよう環境づくりや働きかけの工夫をする。
- ▲ 飼育物の当番活動や小動物との触れ合いを通して、生命の大切さや自然の美しさ、不思議さに気付くよう図鑑や虫眼鏡など用意する。
- ▲ 文字や数字、ものの性質、自然の変化などへの興味・関心の高まりを受け止め、遊びの中で使ったり、疑問をもったり、考えたりできるように、鉛筆や消しゴム、定規や秤、時計など様々なものを子どもが必要に応じて取り出しやすいように環境を整える。
- ▲ はさみやホチキスの扱い、紐結びなど生活の中で必要な技能の習得が十分できているか、もう一度確認し、生活や遊びの中で活かされるようにしていく。

言 葉

- 保育者や友達の言葉や話に興味をもち、親しみをもって聞いたり話したりする。
- 見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりの言葉で表現する。
- したいこと、してほしいことを言葉で表現したり分からないことを尋ねたりする。
- 生活や遊びの中で必要な言葉の意味が分かり、場面に合わせて使う。
- 誰とでも自分から挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。
- 童話や詩などに興味をもち、言葉の面白さやリズム、美しさに気付き、使って楽しむ。
- 文字や数字を使って伝える楽しさを味わう。

保育者の関わりのポイント

- ◆ 自分の思いを言葉で伝えるとともに、興味をもって保育者や他の子どもの話を聞く体験を通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いを楽しめるようにしていく。
- ◆ 文字への関心がもてるよう、環境構成を工夫し、子どもが文字を覚えたい時に読んだり書いたりする体験を積み重ねていけるようにする。
- ◆ 社会の情報や園内のできごとを知らせるなど、伝え合いたくなる状況づくりをし、子ども同士で会話をする楽しさを味わえるようにする。
- ◆ クラスやグループの中で話し合う機会を意図的に設け、自分の気持ちや考えを他の人に分かるように話す楽しさに気付くようにする。
- ◆ 言葉の美しさやリズムが味わえる絵本や物語を用意し、言語体験が豊かになるようにする。

表 現

- 様々な音、色、手触り、動きなどに気付いたり感じたりなどして楽しむ。
- 生活の中で美しいものや心動かすできごとに触れ、イメージを豊かにする。
- 様々な体験や感動を様々な方法で伸び伸びと表現し、伝えようとしたり感動を共有したりする。
- 音の美しさや面白さ、リズムや強弱などを感じ、歌ったり楽器を弾いたりして楽しむ。
- 身近にある美しいものを見て感動したり、身の回りを美しくしようとする気持ちを持ち、生活に取り入れようとしたりする。
- クラス全体で共通の目的に向かって作ったり、言葉や動きで表現したり演じたりして、やり遂げる充実感を味わう。

保育者の関わりのポイント

- 今までの経験を生かし、必要な材料を自由に選択して活動できるようにする。より適した材料や実現の方法を提案するなど、イメージを表現できた喜びや達成感を味わえるようにする。
- 合奏や劇遊び、製作活動などクラス全体やグループで取り組む中で役割を分担し、互いのよさを認め合いながら、最後までやり遂げる楽しさを味わえるようにする。
- 自分の思いやイメージを豊かに表現できる喜びを得られるよう、相手に伝わるようにするための表現方法に気付けるようにする。
- 様々な楽器に触れ、自分で鳴らしたり、弾いたり、グループ同士で聴き合ったり、クラス全体で合奏したりしながら、友達と心を合わせて演奏する楽しさを感じられるようにする。



鉛筆やマジックペンを使って絵本を作る

5 実践事例(22)

5歳児移行期 11月

友達を誘ってリレーをしよう

目的に向かって友達の考えや力を受け止め合って自分たちで遊びを進めるを楽しむ

「リレーやろう」というD児の掛け声に、E児たち8人が園庭に集まった。D児が紅白のゼッケンを持ってくると、紅白の1～4番までのゼッケンを各々が取って4人ずつのチームに分かれて並んだ。紅白それぞれの4番はアンカーたすきを身に着け、1番はトラックのスタートラインに立つ。V児の「よーい、ドン！」の掛け声でスタート。その様子を見ていたL児は、CDプレイヤーと「天国と地獄」の曲が入ったCDを持ってきて、曲を流し、「がんばれー！」と応援をする。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

★リレーに必要なものが分かり自分たちで準備し、リレーを楽しむ。

- ルールを守って友達と力を合わせる。
- 勝つための作戦をチームで考える。

- ▲人数を数え、調整してチーム分けをする。
- ▲勝敗の数を数える。

- ◆自分の考えを言葉で表現する。
- ◆友達の考えや思いを聞く。



- 応援にふさわしい曲を選び雰囲気盛り上げる。

学びの基礎

自分たちで準備して友達とリレーをしよう。

勝ってうれしい、負けてくやしい。

どうしたら勝てる？

走る順番をみんなで考えよう。

がんばれー、応援ありがとう。

もう一回やろう。

👉 保育者の関わりのポイント

☆ 子どもたちが主体的に環境に関わり、夢中になって遊ぶ一つ一つの体験が学びの基礎を培います。保育者はタイミングのよい適切な援助や環境の構成を心がけます。

- ・自分たちで遊び方を考えたり場を作ったりして、共通の目的に向かって活動を進められるようになってきた子どもたち。
- ・運動会での楽しかった経験を再現しようと、遊びに必要なバトン、CDプレイヤー、BGMのCDなど自分たちで準備をし、仲間を集めて遊び始めた。
- ・人数の調整をする、チームを決めるなど、遊びを楽しくするためのルールを共通理解し、自分たちで考えたり工夫したりして遊びを進めている。
- ・グループやチーム意識の高まりをとらえ、ドッジボールやサッカー、リレーなどの遊びを意図的、計画的に取り入れ、充実した活動を積み重ねてきた中で、自分たちで遊びを進められる力が培われてきたと考える。このように主体的に環境に関わり、夢中になって遊ぶ一つ一つの体験が学びの基礎を培っている。
- ・子どもたちが考えたこと、工夫したこと、困難を乗り越えることなどの体験を重視し、認めたり価値付けたりする保育者の援助や、主体的に遊びを創り出せる遊具や用具、素材などの環境構成は重要である。

5 実践事例(23)

5歳児移行期 12月

グループの友達と劇や人形劇をしてみんなに見せてあげよう

共通の目的に向かって一人一人が自己発揮し、達成していく満足感や充実感を味わう

クラスの子どもたちが二つのグループに分かれ、出し物や配役、表現活動に使うものなどみんな考え、力を合わせて取り組み始めた。自分たちが納得いくまで練習したいという意欲がみられ頼もしい。登園後すぐに集まって練習を始めるグループもあり、少しずつ一日の生活の流れを意識して過ごす姿も見られるようになってきた。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

学びの基礎

- 自分の考えを伝える。
- 相手の考えを理解し、受け入れる。
- 活動に見通しをもち、自分の役割や仕事を意識して取り組む。

★身近な遊具や用具に慣れ、安全に使う。

- ▲用具や遊具を使い、考えたり工夫したりして、劇遊びに使うものを作る。

- ◆考えたことや感じたことを言葉で相手に分かるように話す。
- ◆相手に伝わった喜びを感じる。



- 絵本や物語に興味をもって聞き、想像する楽しさを感じる。
- ストーリーに沿って動きや言葉、歌や楽器などで工夫し、表現して楽しむ。
- 劇遊びに必要なものを描いたり作ったりして表現する。

みんなで楽しい劇をやろう。

去年、年長組がやっていたのをやりたい。

先生に読んでもらった「金のがちょうのおはなし」をやろうよ。

劇遊びは楽しいな。

もう一回練習しようよ!!

👉 保育者の関わりのポイント

☆ 子どもたちが共通の目的に向かって力を合わせ、トラブルなどを乗り越えながらやり遂げることができるよう、保育者は見通しを示して意欲を引き出し、子どもたちの様子を見守るなどの援助を行う。

- ・ クラスの友達との温かいつながりの中で、クラスの課題を自分のこととして受け止め、友達と力を合わせてやり遂げようとする力が育ってきた子どもたち。
- ・ 保育者がイメージやストーリーを明確にしたり、アイデアを提供したりするなど見通しをもって活動に取り組めるようにしたことが「自分たちでやろう」という意欲につながった。
- ・ 役決めや大道具・小道具づくり、劇の内容など、グループの友達の中で自分の意見や考えを言ったり、相手の思いを聞いたりして進めていく過程を大切にする。
- ・ 自分の思い通りにいかずトラブルになったり活動が止まったりしたが、そこを一つずつ乗り越えていくことが、友達と協力して活動を進める大切さや、学び合う楽しさを感じとる大切な体験となった。
- ・ これまでの経験が生かされ、活用できるよう、用具や道具、段ボール箱、板、不織布、布などの素材を準備した。これらを自分たちで考えたり工夫したりして使う中で、ものの性質や特徴に気付いたり用具を使う技能の育ちへとつながっていく。

5 実践事例(24)

5歳児移行期 12月

2年生のおもちゃフェスティバルに招待してもらおう

小学校2年生との交流授業で育ち合う

生活科の授業「おもちゃフェスティバル」に5歳児が招待された。「くじ引きや」「ねずみたたきゲーム」「ボーリング」「おぼけ屋敷」など2年生が考えた遊びがいっぱいの広場に参加した5歳児は、ゲームの説明を聞いたり、自分の思いを伝えたりしながら楽しんだ。



ゲームの後、スタンプの色を選ぶ

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

	5歳児	2年生
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃフェスティバルに期待をもって参加し、楽しむ。 各おもちゃコーナーに関わって遊びを楽しんだり、興味・関心を広げたりする。 2年生との交流を喜び、親しみをもって関わったり、やり取りを楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して5歳児と交流を深める。 友達と協力して計画をたてることを通して、考えたり工夫したりして遊ぶことの楽しさや友達のよさに気付く。
活動の流れと経験内容	<ul style="list-style-type: none"> ●期待をもって招待状を受け取る。 ●2年生とのやり取りや関わりを楽しむ。 ◆絵を見たり文字を読んだりして理解する。 ◆ゲームのやり方や分からないことを聞く。 ▲いろいろな遊びに興味をもって参加する。 ▲2年生が作ったコーナーやおみやげの作品に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小学校2年生が5歳児に招待状を届ける。 <ul style="list-style-type: none"> おもちゃフェスティバルに期待をもってもらえるような招待状を作る。 ◎おもちゃフェスティバルで交流活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> 5歳児が遊びを楽しめるよう遊び場コーナーを整える。 遊び方や遊びの楽しさを5歳児に分かるように話す。

いもほりゲームコーナーで

○ひとりずつひもをひきます。
 ○あかむらさきがでたらもういっかいひもをひけます。
 ○ふつうのむらさきがでたらごほうびがもらえます。
 ○あかむらさきがでたおともたちはごほうびを2こもらえます。
 ○ごほうびはじぶんですきなのをえらべます。
 ○がんばってください。

いもほりゲームコーナーで看板の文字を5歳児のJ児は一生懸命読むが、意味を読み取ることができず、2年生に「分からないからおしえて」と聞く。2年生が看板を読んでくれるがそれでも分からず「やっぱり分からない」と根気強く説明を求める。やがて読んであげるだけでは伝わらないと分かった2年生は具体的にやって見せながら話したことでJ児はゲームを理解し、楽しむことができた。

活動を通して育つ子どもの姿

- ・ J児は、「分からないことは分からないままにしないで2年生に聞きましょう。」という担任の事前指導を理解し、行動していた。
- ・ J児に対応していた2年生はゆっくり話し、理解できるまでいろいろな方法を考え、根気強く話した。
- ・ 聞きたいという気持ちが伝わるとよい話し手が生まれる。よい話し手はよい聞き手を育てることによって育つ。
- ・ 小学校へ入学する前のこのような活動が、園児にとって学校への親しみや期待へとつながっていく。

6 必要な経験に向けての工夫及び教材・玩具など

一人一人が目的をもって取り組み、自分なりに試したり工夫したりできるように

- 追求していきたい要求を満たせるような用具、材料：虫眼鏡、磁石、モール、割りピン、カラービニール袋、紙粘土、紙版画の材料など
- 「作って遊ぼう」、飼育の仕方や生態が理解しやすい「しぜん」シリーズ、様々な図鑑など
- 自分なりに挑戦したり、繰り返し試したりできる遊具や用具：ボール、とび縄、かるた、投げゴマ、凧作り、あやとりの紐、編み物用の毛糸、版画材など

友達と考えを出し合って、自分たちで遊びを進められるように

- 友達と一緒に遊びの中で展開してきたものを発表する機会や場を作る、誕生会や生活発表会、ごっこ遊び：人形劇、ペープサート、影絵、合奏、劇、踊りなど
- 遊びの中で工夫して使えるような素材、教材、遊具：楽器、ダンボール、ごぎ、木片、セロファン、不織布、毛糸、紙粘土など
- 自分たちで設定したり、扱ったり、片付けたりしやすいような場や遊具、用具：リレーのバトン、サッカーゴール、長短縄、大型積み木、ダンボール箱や板、カセットデッキなど
- イメージを広げていく楽しさを味わったり、自分たちの遊びのイメージを広げたりする絵本：「ももいろのきりん」「おいしいのぼうけん」「エルマーの冒険」「11ぴきのねこ」「ももたろう」など
- 気の合った友達やクラスでの活動に向けて、イメージを共通にしていける絵本：自動車、電車などの乗り物の本、遊園地や動物園が描かれている本など
- 自分たちでやり取りが楽しめる遊びの絵本：なぞなぞ、クイズ、あやとりなど
- 人への優しさ、思いやり、命などに触れている絵本：「ごんぎつね」「てぶくろをかいに」「さっちゃんのまほうのて」「手紙をください」日本や世界の名作など

季節を感じたり、自然現象や栽培物、飼育物に興味や関心をもったりできるように

- 自然への関心を高める歌：「とんぼのめがね」「まっかな秋」「虫の声」「やきいもグーチーパー」「北風小僧の寒太郎」「たこあげ」「雪」「ゆげのあさ」「春がきた」など
- イメージを広げていく楽しさを味わう歌：「空にらくがきかきたいな」「青いそらに絵をかこう」「さんぽ」「あわてんぼうのサンタクロース」など
- 文字や数字への関心をもてるような歌：「数字のうた」「カレンダーマーチ」など
- 自分たちが大きくなったことを感じる歌：「大きい木」「思い出のアルバム」「1年生になったら」など
- 行事の歌：「うんどうかい」「お正月」「まめまき」「うれしいひなまつり」など
- 根や芽の出る様子を見ながら成長を楽しみにして世話ができる水栽培や春に花が咲く球根を植えるなど計画し、取り組む：ヒヤシンス、クロッカス、スイセン、チューリップなど
- 秋の終わりから冬にかけて収穫できる野菜の種をまき、成長を楽しみにしながら育てる：大根、小松菜、ブロッコリーなど
- 秋・冬野菜の収穫後、来年の春に花が咲く植物の種まきや苗植えをして、成長の様子を楽しみにしながら育てる：菜の花、桜草など
- 季節の変化に気付き自然現象に驚いたり、不思議さを感じたりするとともに、友達と気付きや思いを伝え合う：紅葉や落ち葉の美しさ、風の冷たさ、雪、霜柱、氷など
- 季節の変化に対応した遊び：落ち葉や木の実を使った製作、たこあげ、雪遊び、氷作りなど
- 見たり話題にしたりしながらもうすぐ春がくることを感じる：いろいろな木々の冬芽、桜草の花、菜の花の芽など